

平塚市文化祭「書道」へのおさそい

平塚書道協会 2026年

- ☆ これまで出品されたことのない方々へ
- ☆ 中学生・高校生で書道をやっている皆さんへ
- ☆ 「釈文用紙」

- ◎ 平塚市では、年2回書道の作品展示の機会があります。「ひらつか市展」と「平塚市文化祭」です。
- ◎ 運営を平塚書道協会が担当させていただいていますが、市教育委員会との協議でそれぞれの「展示会」の特徴を下記のとおりまとめました。

作品を書家の視点で評価する「ひらつか市展」に対し、「平塚市文化祭」は書の力量を問うことを優先せず、広く市民の皆さんに書の文化活動の楽しさを共有していただく…という方針を取っています。会場はどちらも平塚市美術館、ご存じのとおり会場と展示壁面の高さは最高の施設です。

平塚市文化祭「書道」のスタンス(姿勢、立場)は

- 1 大切にしている言葉・詩文を
 - 2 あこがれの書文字をめざして
 - 3 (誰かの、何かの後押しの)ひらめき(閃き)を毛筆ならではの筆致で
- …とします。

現在習っている字の作品(古典を学ぶ作品、先生の手本をもとに書く作品)の出品も可能となっています。

書道を始めたばかりの方々、少し力を入れてこれらの作品を作ってみて下さい。これにより飾られた作品の前での技術的なお話もはずむ事と思います。

書の基礎学び(臨書)の先に、一般に「自運(創作)」という作品が生まれるのです。

	題 名	作 者
文 庫	鑑 録	

かな作品は日本語の歴史を学びながら生まれる作品です。かなが発展した場所の多くが宮廷でしたので、その日本的優雅さが魅力です。

書道作品の基礎的事項ですが、公民館等で主に「半紙」を使った習字教室に参加しているが「展示作品」となると、ご存じない点がいくつかあると思います。出品して頂くに当たり用語を簡単に説明します。

【裏打ち】

和紙に墨で書いたものは、乾くとシワが出ます。展示となると、見た目がきれいではないので、これを延ばし紙を強化するものです。もとの作品に別な和紙(裏打ち紙)を重ね貼りします。水と糊と和紙との伝統がふまえられた日本(東洋)技術の一つです。半紙の大きさ程度の裏打ちが必要でしたら書道協会事務局にお問合せ下さい。

【落款印(らっかんいん)】

作品の署名の後に押す印です。基本は朱色。作品全体を引き締めまとめてくれると同時に、作者の自作完成を意味します。お持ちでない方は書道協会にて基本的な相談、お手伝いを承ります。

【作品の展示と表装】

多くは和紙に書かれた作品として軸仕立て(軸装)、額に入れる(額装)で展示されます。その他に、「刻字」・「篆刻」という部門が書道展にあります。和紙による書作品+刀+木(竹、石)の組み合わせです。軸や額は必ずしも必要ではありません。「篆刻」というのは前の落款印からの発展です。これはその方面の石(印材)を用いて、方寸の世界での書道です。できた印を押したものの「印影」(いんえい)を額装または軸装で展示します。

前ページ下段に「釈文用紙」をつけました。切り離してご利用ください。応募規定に「釈文を添付」とあります。これは、出品者の作品に対する簡単な説明です。それと共に作品に使用した古典の作者に対して敬意を表す意味があります。漢詩文ではその詩文の題名と作者名、日本語読み(書き下し文)を書き添えます。

問合せ先;平塚書道協会事務局 森 虚堂 電話:090-9959-5864